

「年間第 11 主日」 2021 年 6 月 13 日 「一緒に祈りましょう」

皆様、
主の希望、信頼、平和のうちに、
難しい時期ですが、復活の光であるイエス・キリストはわたしたち一人一人を教会共同体として導いてくださっています。信仰はわたしたちの盾です。

6月13日は、**「年間第11主日」**です。

では、ミサに参加することがない方々は、一緒に心をあわせて、祈りましょう。時間がある時は、一本のろうそくをつけて、沈黙し、十字架のしるしをゆっくり行いましょう。

「聖書と典礼2021.6.13」をお持ちであれば、その流れに従って、次にあるコメントを自由にお使い下さい、少なくとも、聖書を開いて、第一朗読エゼキエルの預言書 17,22-24と、「答唱詩編」92(91)、第二朗読使徒パウロのコリント教会への第二手紙 5,6-10 と、マルコによる福音4章26-34節を読み、個人的に黙想し、神のみ言葉についての分かち合い / 共同祈願を行いましょう。

コメント アントワン神父

I- 第一朗読 エゼキエルの預言書 17,22-24 について

預言者エゼキエルは、「メシア」の時代、「柔らかい若枝」を、「高い山にそれを移し植えると、それは枝を伸ばし実をつけ、あらゆる鳥がそのもとに宿る、うっそうとしたレバノン杉となる」と預言しました。これは「新たにエルサレムを立て直し、神の家も建てる事が出来、「神の国が来ますように」と言う希望のメッセージを、捕囚されているイスラエル/ヘブライ人に宣べ伝えているのです。

II- 「答唱詩編」92(91)について

この詩編は捕囚時代から解放されたイスラエル人の感謝の歌だと言われています。これから、神と選んだ民との新たな契約が始まります。「レバノンの杉(香柏)」とは、終わらない契約と言う意味でもあります。

イエスはこの詩編を祈りながら、これから向かう十字架の木による神と全ての人々との、新しい永遠の約束を考え始めたのではないのでしょうか。

この詩編で、洗礼によって救い主を信頼している私たちは、木が樹液で潤うのと同じように、聖霊の力と賜物を頂いたことを考えて見ましょう。「年を経てもなお実を結び(ます)。」(15節)。

III- 第二朗読 使徒パウロのコリント教会への第二手紙 5,6-10 について

「体を離れて」とは、「死」の意味で、「主の元に住む」とは、死後に天国の扉が開き復活するということです。「そのような信仰を持っている私たちは、キリストの裁きあるいは審判を信頼うちに迎えましょう。」というメッセージを使徒パウロは伝えています。

IV- マルコによる福音4章26-34節 について

今年の四旬節の始まり(2月17日)から、久しぶりに「年間主日」の期間に戻りました。Bの年のマルコによる福音を再び聞くこととなります。イエスは例え話で「神の国」を弟子たちと大勢の人に説明しています。

「成長する種」また「土はひとりでに実を結ばせる」この例えの意味は、種が成長するための雨や太陽の光、暑さ、そして土の養分などは、収穫まで神が与える恵みだということです。これは使徒パウロの手紙を思い起こさせます。「わたし(パウロ)は植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。(…)わたしたちは神のために力を合わせて働くものであり、あなたがた(コリント教会共同体)は神の畑、神の建物なのです。」(1コリント3.6-9)。御国/神の畑のために働いている司祭、助祭、信徒たちはその御国/畑の主人ではありません。それは神のものです。わたしたちは「取るに足りない僕です。しなければならぬことをただけです」(ルカ17.10)。それは「み国が来ますように」と言う意味です。

「からし種」のたとえの意味は、「御国が来ますように」のために、それぞれに使命がありますが、どんな使命であっても、その使命には価値があり、神の計画全体の中で重要な役割を持っているのです。教会から使命を受ける時、私たちは「からし種」として恵まれた小さな使命を受け取り、神にその使命の成長を委ね、御国のために実を結ぶことになるのです。

「イエスは、人々の聞く力に応じて、(…)たとえでみ言葉を語られた」イエスは人びとの人となりに合わせて教えられました。教会のでも信徒たちの「聞く力に応じて」、また初めて信仰の道を歩む人びとの「聞く力に応じて」司教・司祭・助祭などが福音を宣べ伝えるならば、実を結ぶにちがいないと思っております。

(沈黙、分ち合いか/共同祈願か)

次に、祈りましょう。(ミサの集会祈願)

「愛と慈しみに満ちた神よ、あなたはキリストによって始められた神の国を、力強く成長させて下さいます。ここに集まる私たちがあなたの働きに心を向け、み旨の実現に協力する者となりますように。

聖霊の交わりのなかで、あなたとともに世に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

最後に 十字架のしるしをゆっくり行いましょう。「父である神様に感謝」。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈りを一緒に祈りましょう。(別紙)

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、
新型コロナウイルスの感染拡大によって、
今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、
感染の終息に向けて取り組むすべての人、
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、
尽きることのない安らぎに満たされますように。
不安と混乱に直面しているすべての人に、
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、
わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、
世界のすべての人と助け合って、
この危機を乗り越えることができるようお導きください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、
苦難のうちにあるわたしたちのためにお祈りください。

(2020年4月3日 日本カトリック司教協議会認可)

Prayer for the World Suffering from the New Coronavirus Pandemic

O loving God,
Look kindly upon the world, now in great difficulty
Through the spread of the new coronavirus.
May necessary medical care be given to those who suffer from the disease.
Guide those who work toward ending the infection.
Protect all healthcare workers and all those who care for the sick.
Welcome the deceased into your eternal kingdom.
Fill them with everlasting peace.
May hands reach out to help everyone facing anxiety and confusion.
God, the source of hope,
Guide us in this crisis
That we may spare no sacrifice to prevent the spread of the infection,
That we may serve everyone in the world,
We ask this through our Lord Jesus Christ. Amen.
Mary, source of hope and comfort, Pray for us in this hardship.

(Approved by the Catholic Bishops' Conference of Japan, April 3, 2020)